

3. 経済状況

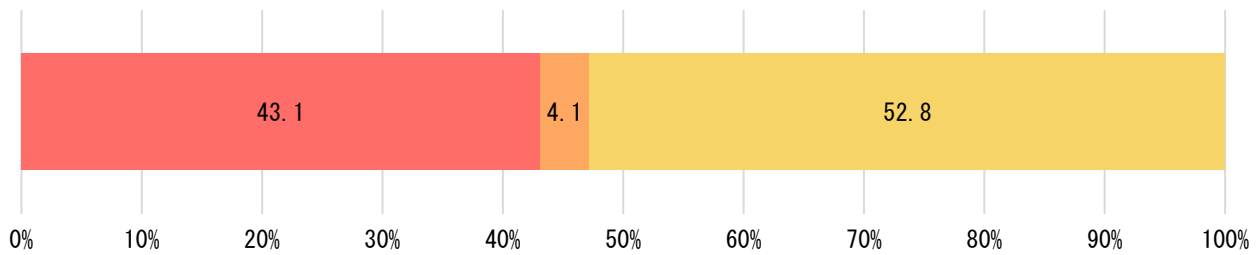
(1) 住居の形態

問7 あなたが現在住んでいるのは、次のうちどれですか。

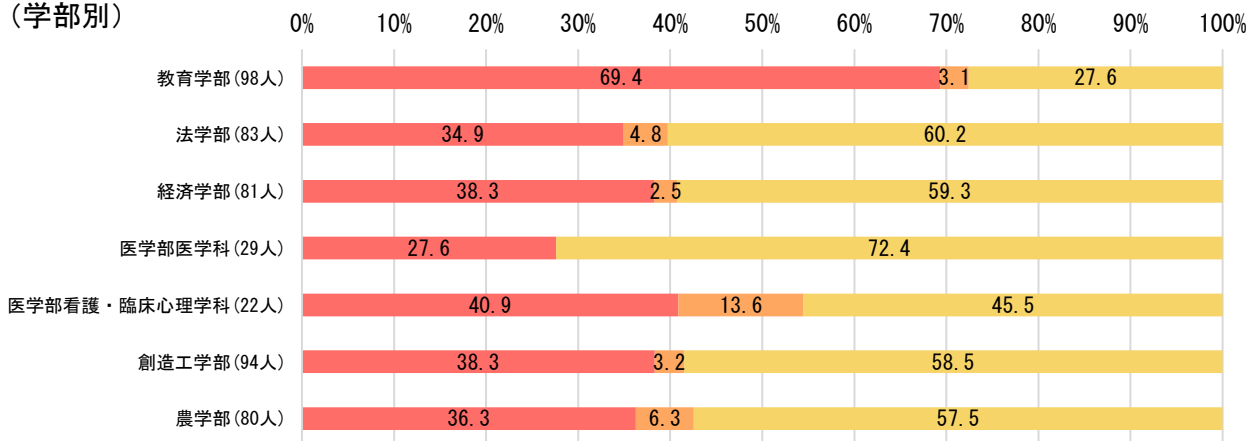
全体の約6割が下宿生、約4割が自宅生であるのは、前回調査と変わりません。所属学部別に見て自宅生が際立って多いのが教育学部です。自宅生が少ないのは医学部医学科です。前回の調査と比較すると、法学部、医学部医学科、農学部で自宅生の割合が増加しました（法学部：22.5%→34.9%、医学部医学科：20.6%→27.6%、農学部：25.0%→36.3%）。また、医学部看護・臨床心理学科の大学の学生寮の割合が0%から13.6%に上がりました。

■自宅 ■大学の学生寮 ■アパート・マンション・下宿

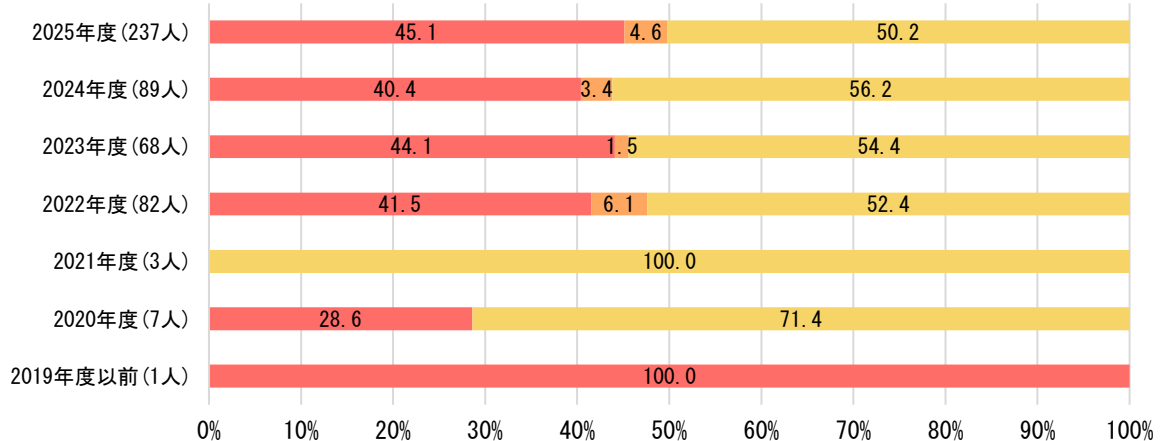
【全体(487人)】



(学部別)



(入学年度別)



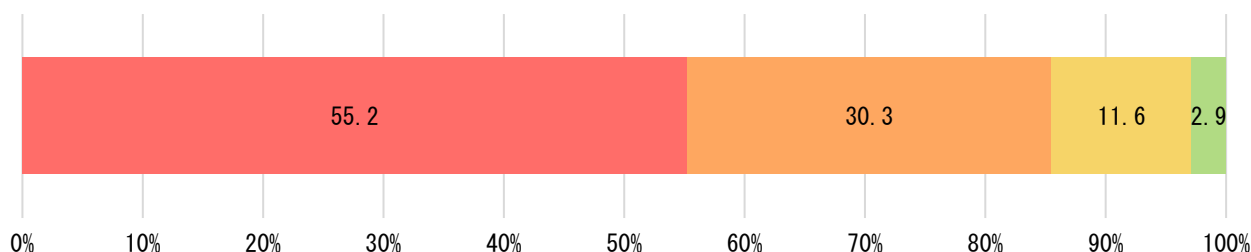
(2) 住居を選んだ理由

問8 現在の住居を選んだ理由は何ですか。

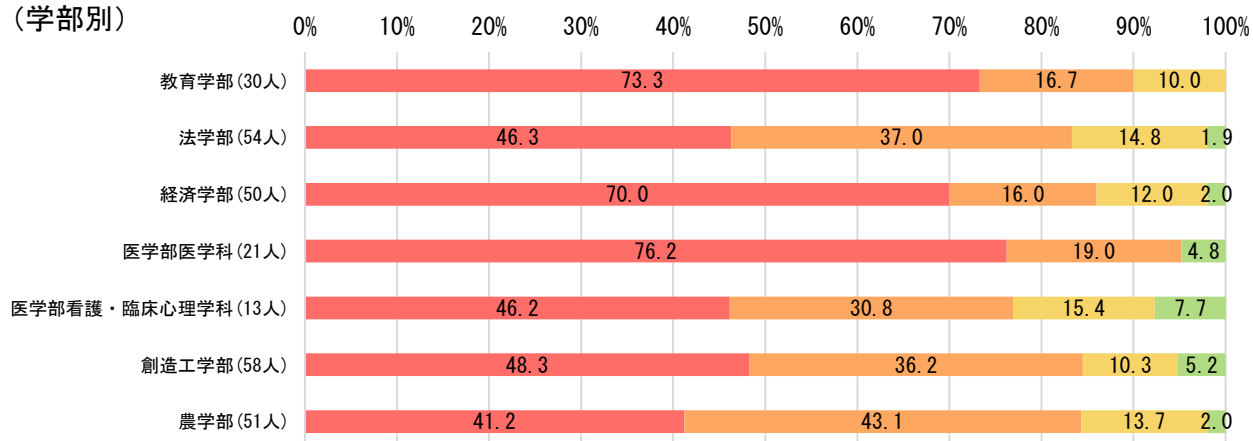
前回調査では、「大学に近い」を理由に選んだ学生が約64%でしたが、今回は約55%に下がりました。「生活するのに便利」を選択した学生は前回調査の27.3%から30.3%とあまり変わらず、「家賃が安い」を選択した学生は前回調査の7.3%から11.6%に上がりました。学部別では「大学に近い」を選んだ学生が法学部で前回から約34%減少し、逆に医学部医学科で約10%上昇しました。また「家賃が安い」が多くの学部において前回調査より増加しました。

■大学に近い ■生活するのに便利 ■家賃が安い ■その他

【全体(277人)】



(学部別)



(入学年度別)



問9 問8で、「その他」を選択した方はその内容を記述してください。

教育学部

（ 回答無し ）

法学部

（ ・きづいたらここでした ）

経済学部

（ ・祖父母の手助けをするため ）

医学部医学科

（ ・人に会わなくて済む ）

医学部看護・臨床心理学科

（ ・安心 ）

創造工学部

（ ・景色がいい
・通う2つのキャンパスの中間地点であるため ）

農学部

（ ・大学に近い、生活するのに便利、家賃が安い全て ）

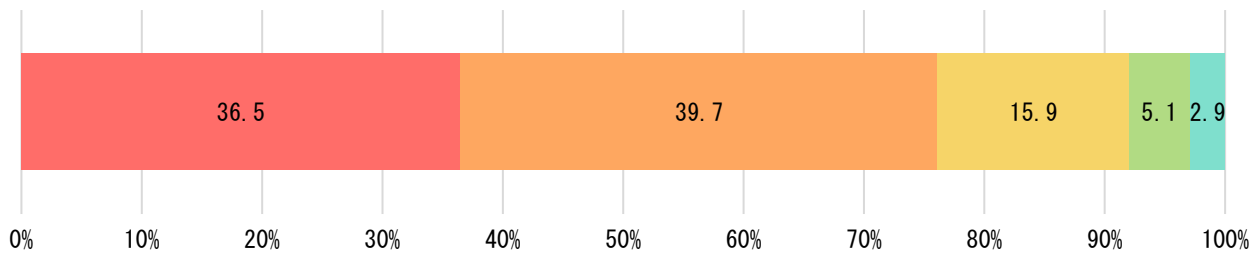
(3) 部屋の間取り

問10 現在の住居の部屋の間取りはどのタイプですか。

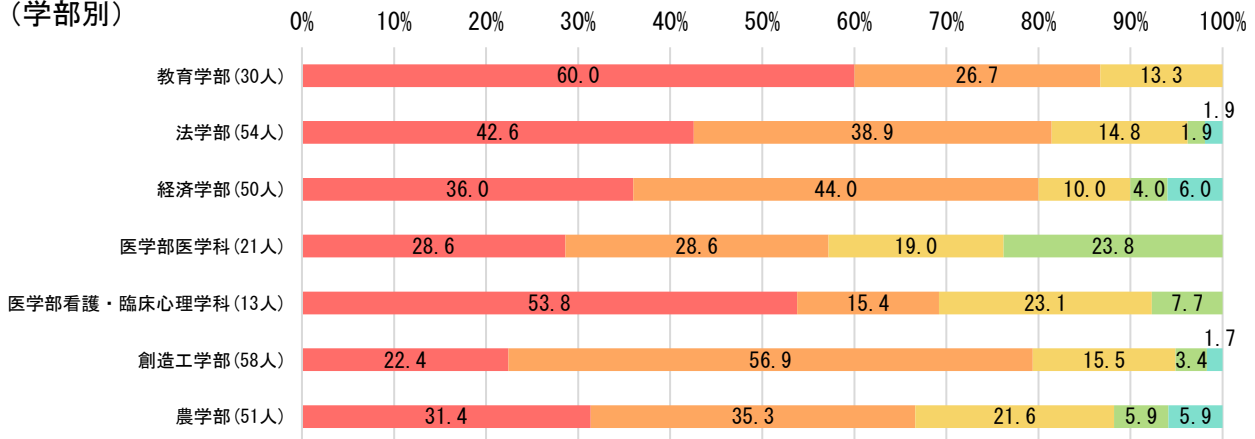
全体の割合は前回調査から大きく変化はありませんでした。
 学部別では教育学部、医学部医学科、医学部看護・臨床心理学科でワンルームの割合がそれぞれ36.4%から60%、7.4%から28.6%、10%から53.8%に大きく増加しています。逆に法学部、経済学部、創造工学部、農学部ではワンルームの割合が減少し、法学部では1DK以上のタイプが、その他の学部で1Kタイプが増加しました。

■ ワンルーム ■ 1K ■ 1DK ■ 1LDK ■ その他

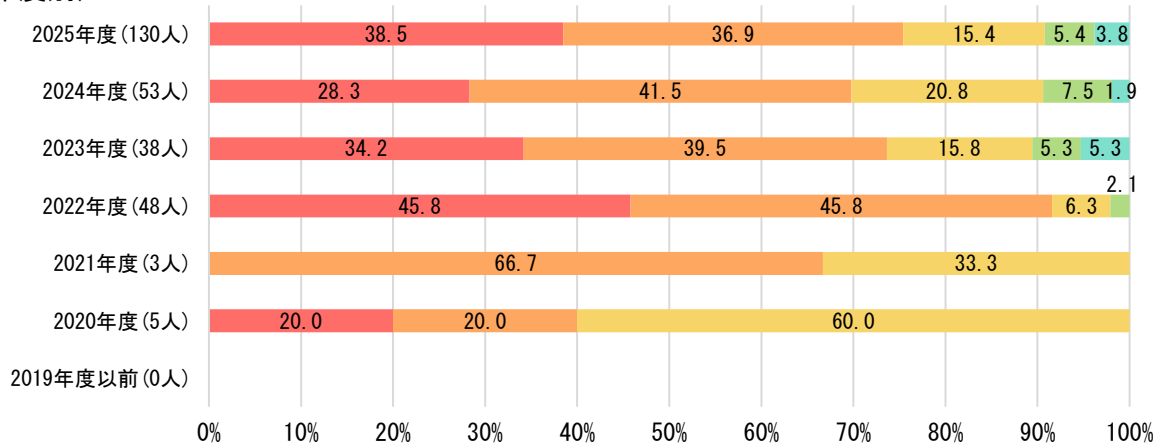
【全体(277人)】



(学部別)



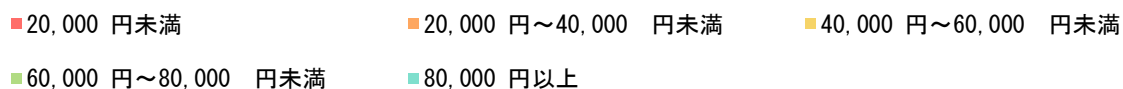
(入学年度別)



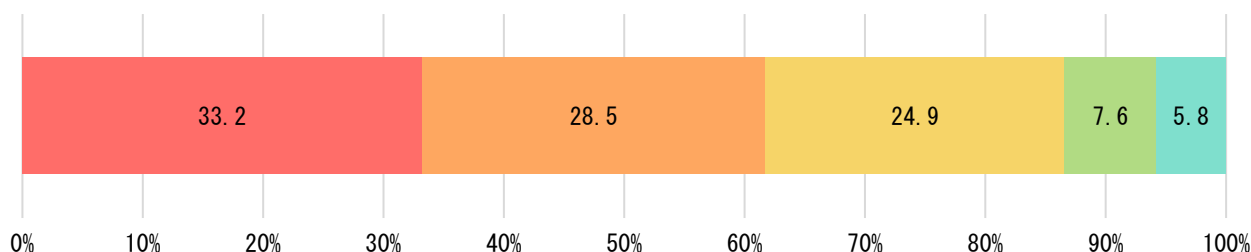
(4) 1ヶ月の仕送り額

問11 あなたの仕送り額はいくらですか。(家賃を除く。)

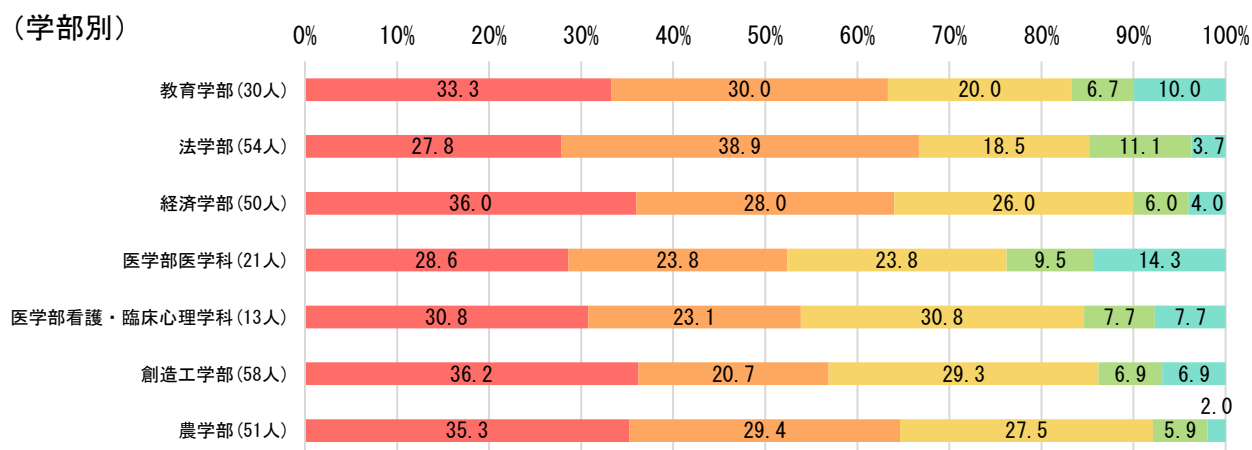
4万円未満が全体の約6割、6万円以上がおよそ1割であるのは、前回調査と変わりません。所属学部別に見ると、教育学部、法学部、経済学部、農学部の仕送り額がやや低い傾向にあるようです。しかし医学部医学科は、前回調査に比べて2万円未満の仕送りを受ける学生が約1割から約3割に上昇しています。入学年度別に見ると、2023年度入学生の2万円未満の割合が低くなっています。



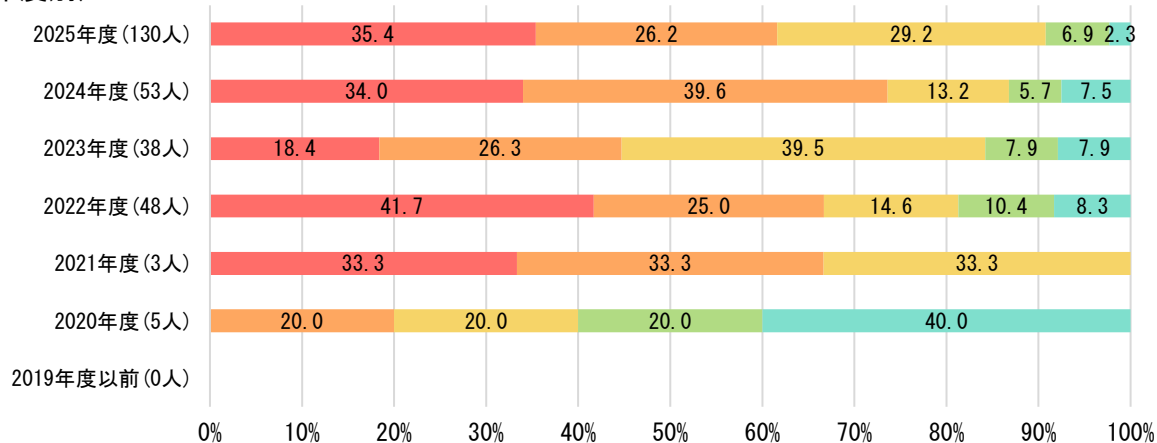
【全体(277人)】



(学部別)



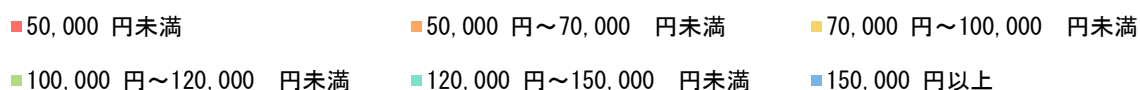
(入学年度別)



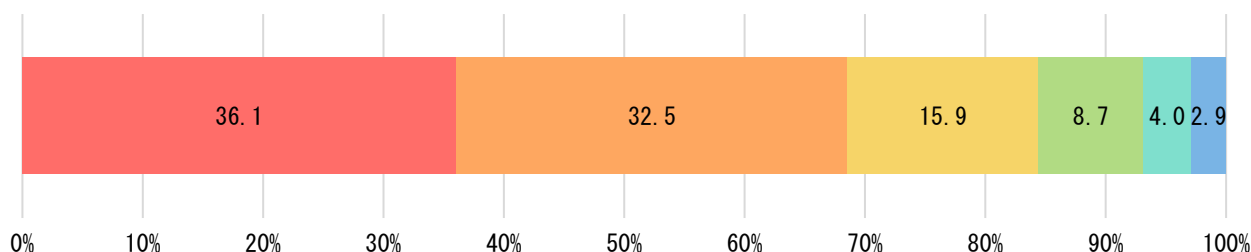
(5) 1ヶ月の支出額

問12 あなたの最近1年間における、1か月の支出平均額はいくらですか。(授業料を除く。)

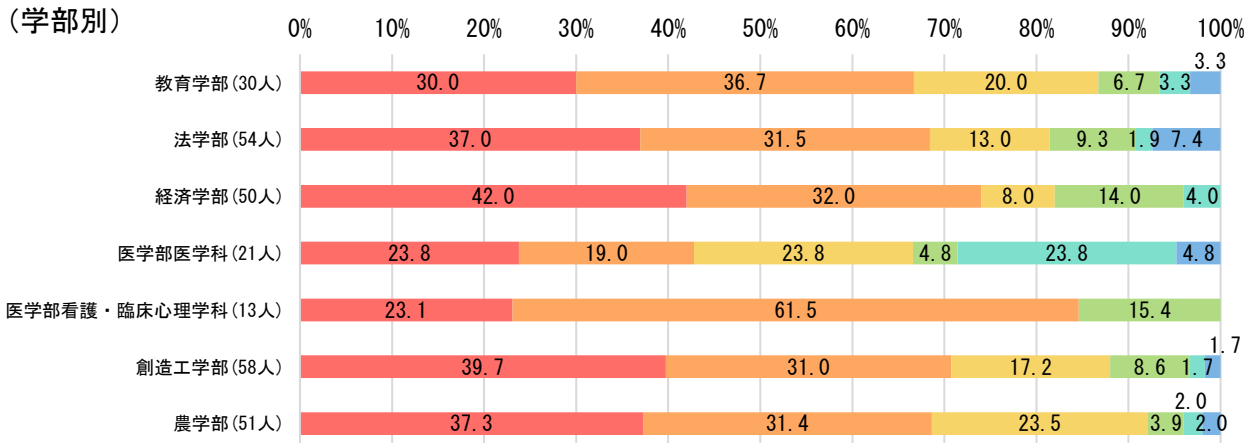
5万円未満が全体の3分の1程度を占めており、10万円を超える学生は15%程度です。所属学部別に見ると、医学部医学科の学生に支出が多く、3割程度の学生が12万以上となっています。医学部看護・臨床心理学科では、8割以上が7万円未満である一方、7万～10万円未満と回答した学生はいませんでした。また2021年度から2025年度にかけて、学年が上がるにつれて支出額が上がる傾向がみられました。



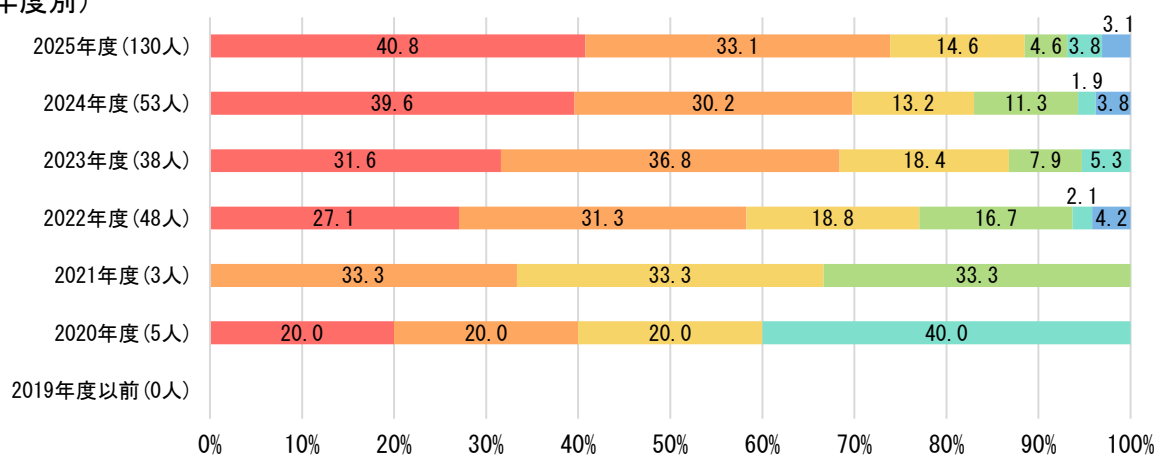
【全体(277人)】



(学部別)



(入学年度別)



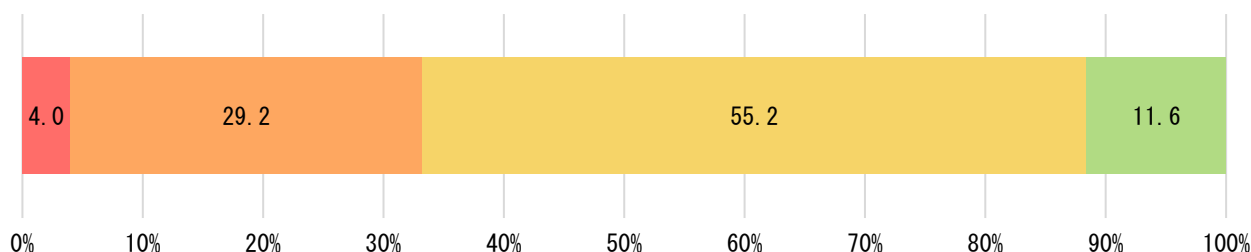
(6) 1ヶ月の住居費

問13 あなたの1ヶ月の住居費はいくらですか。

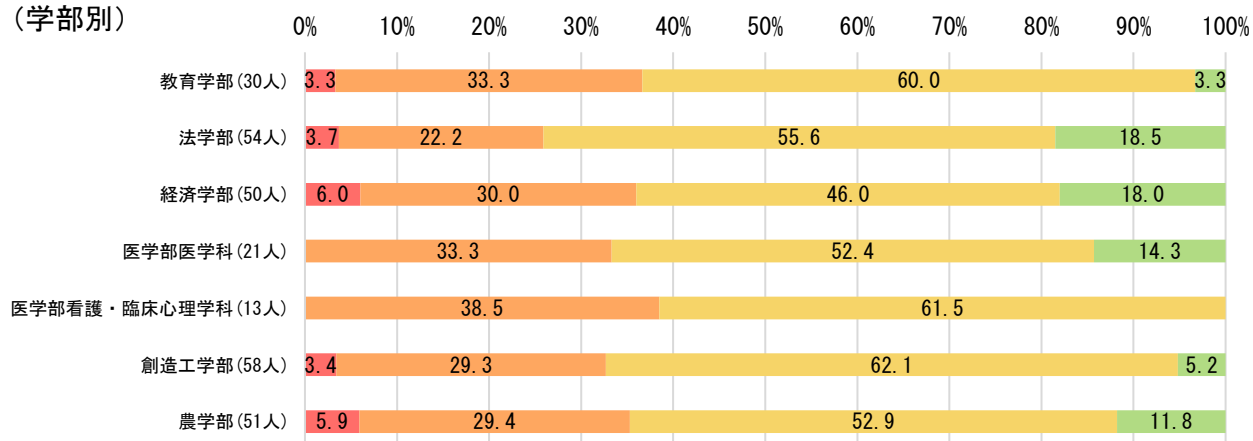
全体の3分の1程度が4万円未満で、4万以上の割合が前回調査よりもやや増えています。今回はすべての学部で4万円以上が6割を超えており、全体的に前回よりも1ヶ月の住居費は高くなっているといえます。教育学部では4万円～6万円未満と回答した人の割合が、前回調査よりも20%程度上昇しました。また、法学部、経済学部、医学部医学科、農学部では、6万円以上の割合が増加しています。

■ 20,000 円未満 ■ 20,000 円～40,000 円未満 ■ 40,000 円～60,000 円未満 ■ 60,000 円以上

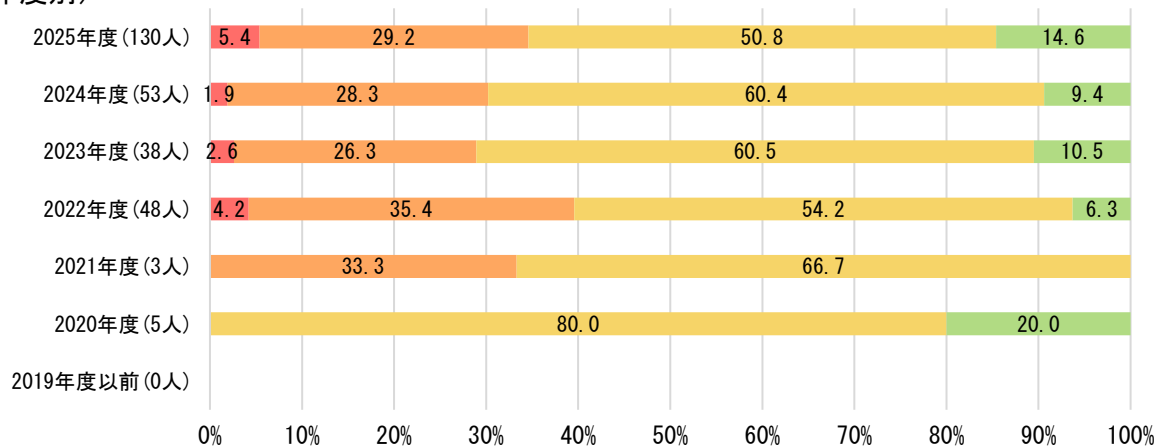
【全体(277人)】



(学部別)



(入学年度別)



(7) 1ヶ月の食費

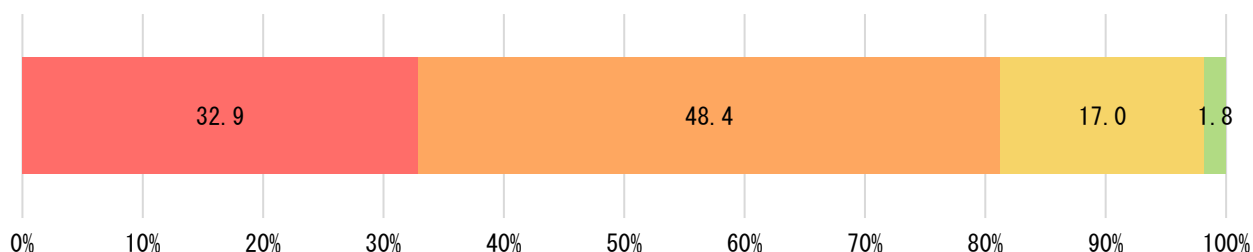
問14 あなたの最近1年間における、1ヶ月の食費の平均額はいくらですか。

食費が3万円未満の学生が8割を超えており、そのうち2万円未満と回答している学生が全体の3分の1近くとなっています。

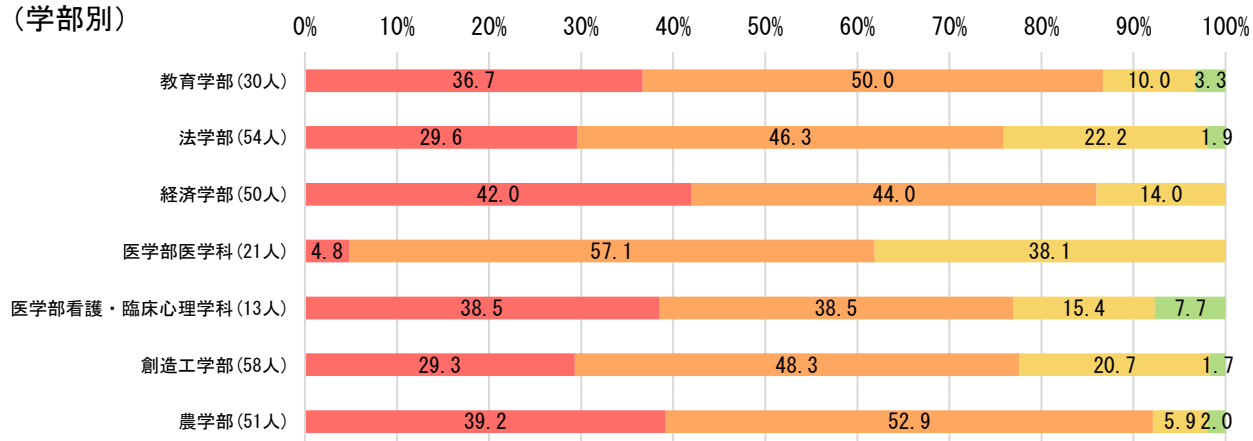
所属学部別でみると、医学部医学科では2万円未満の学生が他学部に比べて少なく、2万円～3万円未満の学生が6割近くとなっています。学年別で見ると、2万円未満と回答する学生の割合が学年の上昇に伴って減少していることが分かります。

■ 20,000 円未満 ■ 20,000 円～30,000 円未満 ■ 30,000 円～40,000 円未満 ■ 40,000 円以上

【全体(277人)】



(学部別)



(入学年度別)



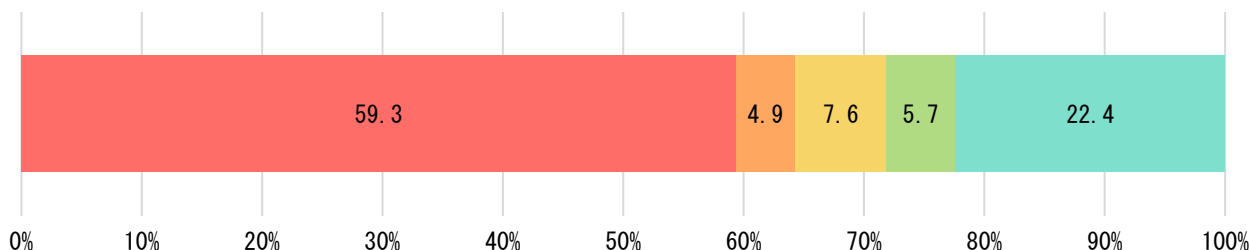
(8) 1ヶ月の奨学金

問15 あなたの1ヶ月の奨学金はいくらですか。

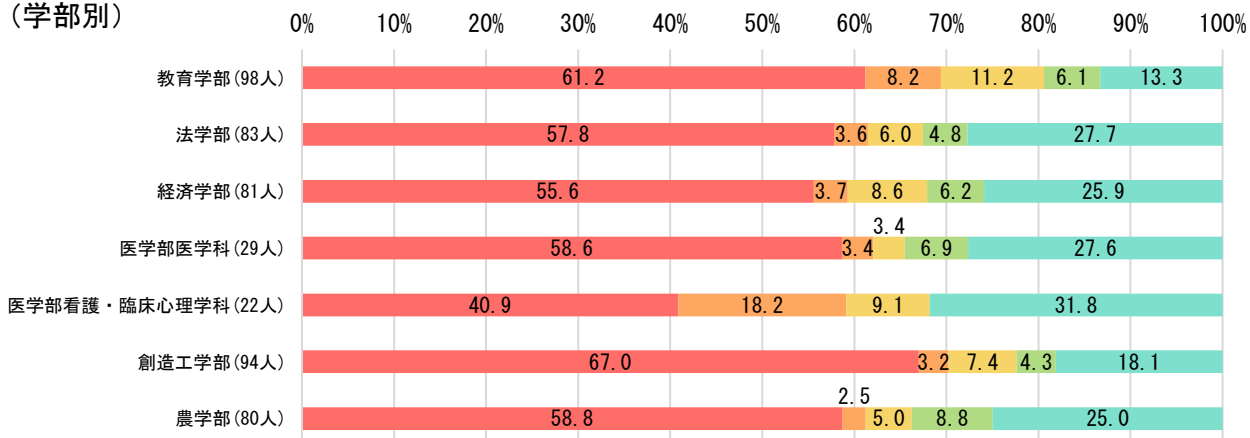
全体では奨学金非受給者の割合は59.3%であり、前回調査時の63.3%から4%ポイント減少しています。非受給者が比較的多いのは、創造工学部で67.0%、逆に低いのが医学部看護・臨床心理学科で40.9%となっています。また、入学年度によって奨学金利用状況に差があり、近年入学した学生ほど奨学金を利用している割合が高くなっています。物価上昇や生活費の増加が影響している可能性があります。なお、奨学金受給者のうち、22.4%が月額4万円以上の給付・貸与を受けており、一部の学生では生活費や学修環境を維持するうえで奨学金への依存度が高い状況がうかがえます。

■ 0円 ■ 20,000円未満 ■ 20,000円～30,000円未満 ■ 30,000円～40,000円未満 ■ 40,000円以上

【全体(487人)】



(学部別)



(入学年度別)



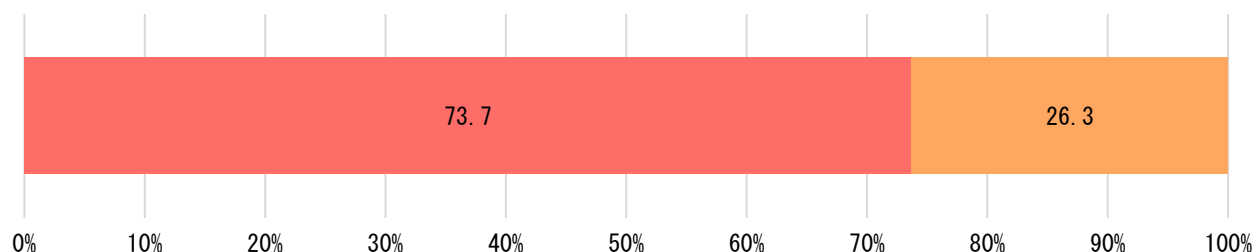
(9) 過去1年間のアルバイト経験

問16 あなたは最近1年間にアルバイトをしましたか。

入学年度別では、1年生（2025年度入学生）のアルバイト経験率が60.8%と比較的低い結果となりました。入学初期は、履修状況や生活リズムの形成段階にあることが影響している可能性があります。今後、継続調査の中で変化を追う必要があります。一方、2年生以降では84.3～89.0%と高い割合で推移しており、学年が進むにつれてアルバイトが生活の一部として定着している様子がうかがえます。

■ した ■ していない

【全体(487人)】



(学部別)



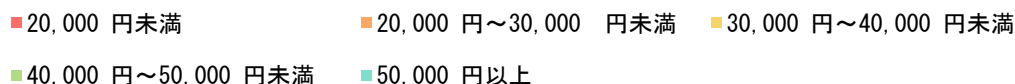
(入学年度別)



(10) 1ヶ月のアルバイト収入

問17 あなたの1ヶ月のアルバイト収入の平均額はいくらですか。

全体では、回答者の32.6%が月額5万円以上のアルバイト収入を得ており、一定割合の学生にとってアルバイトが重要な収入源となっている状況が確認できます。
 学部別にみると、法学部の学生が42.0%と最も高く、反対に医学部医学科では15.0%と低くなっています。授業や実習の拘束時間の差が影響している可能性があります。
 入学年度別では、2022年度入学生が38.4%と最も高い一方、2025年度入学生では26.4%と低い傾向がみられました。大学生活の初期段階にある学生は、履修や生活サイクルの調整期間でもあることから、アルバイト開始の時期が遅れることが背景にあると思われます。今後の調査で推移を継続的に確認していく必要があります。



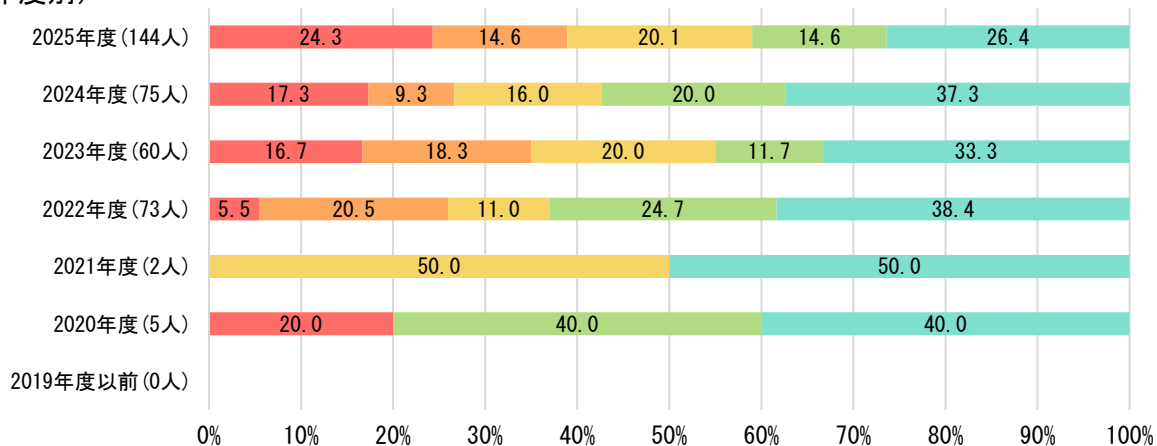
【全体(359人)】



(学部別)



(入学年度別)



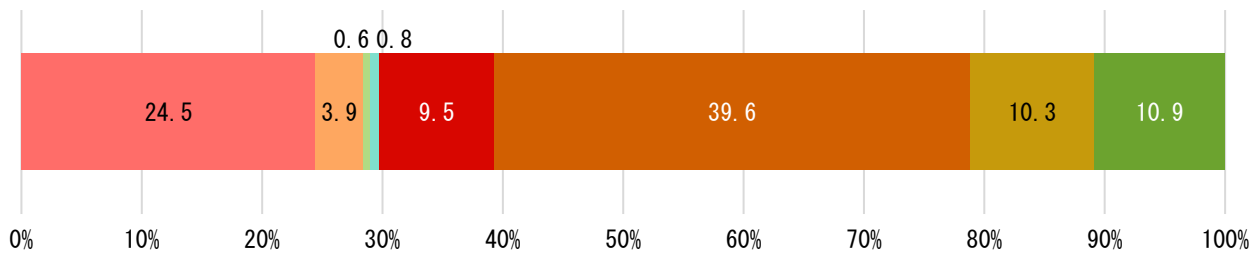
(11) アルバイトの主な職種

問18 あなたが主に従事したアルバイトを1つ選んでください。

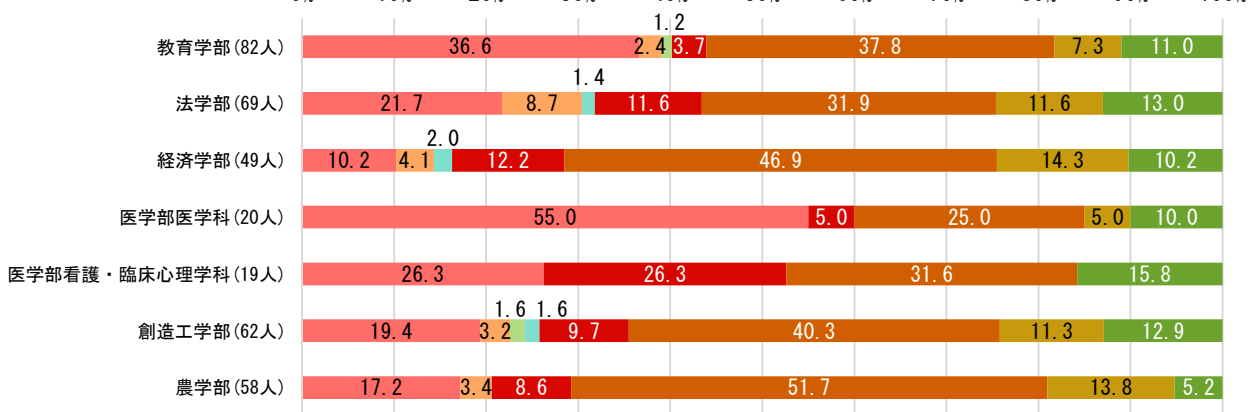
アルバイトの主な職種としては、飲食店の店員（39.6%）が最も多く、次いで家庭教師・塾講師（24.5%）、スーパーやコンビニエンスストアの店員（10.3%）が続いています。販売員（9.5%）も一定数みられ、前回調査とおおむね同様の傾向です。特に医学部医学科では55.0%が家庭教師・塾講師に従事しており、特徴的な結果です。また、2025年度入学生でも約4人に1人が同様の職種に従事しています。

- 家庭教師・塾講師
- 配達員
- 販売員
- その他
- 事務員
- 清掃作業員
- 飲食店の店員
- 工場・建築現場の作業員
- 警備員
- スーパー、コンビニエンスストアの店員

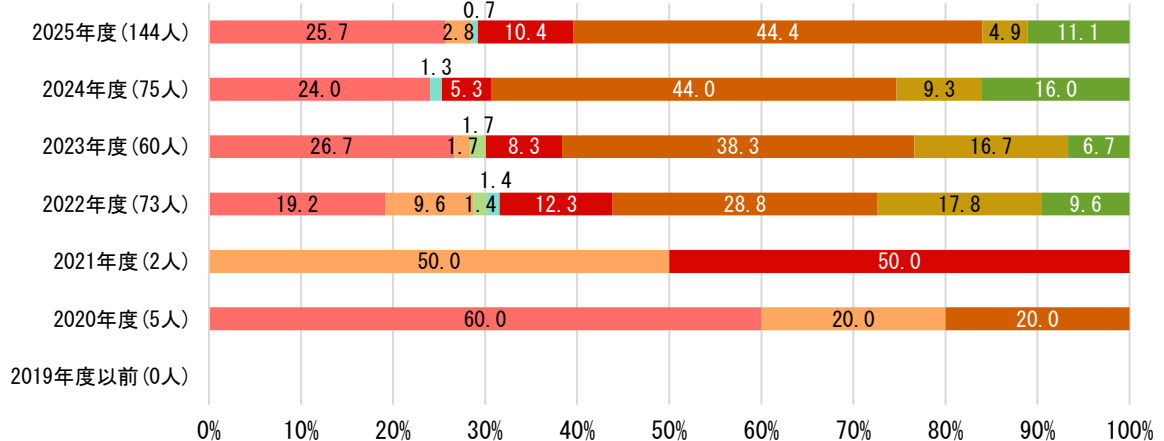
【全体(359人)】



(学部別)



(入学年度別)



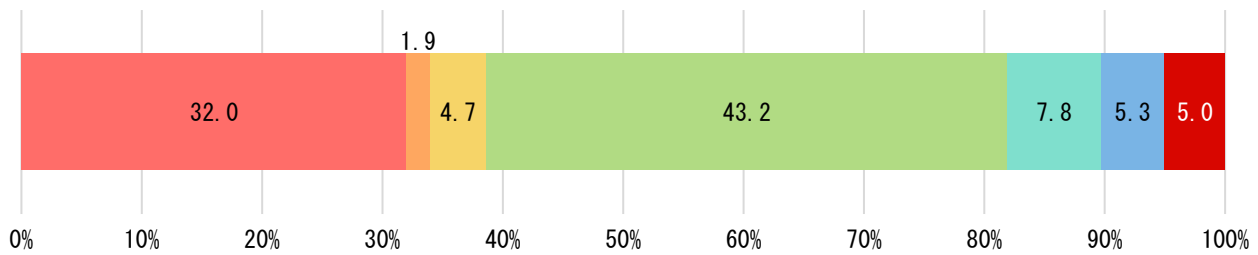
(12) アルバイト収入の主な使途

問19 アルバイト収入の主な使途は何ですか。

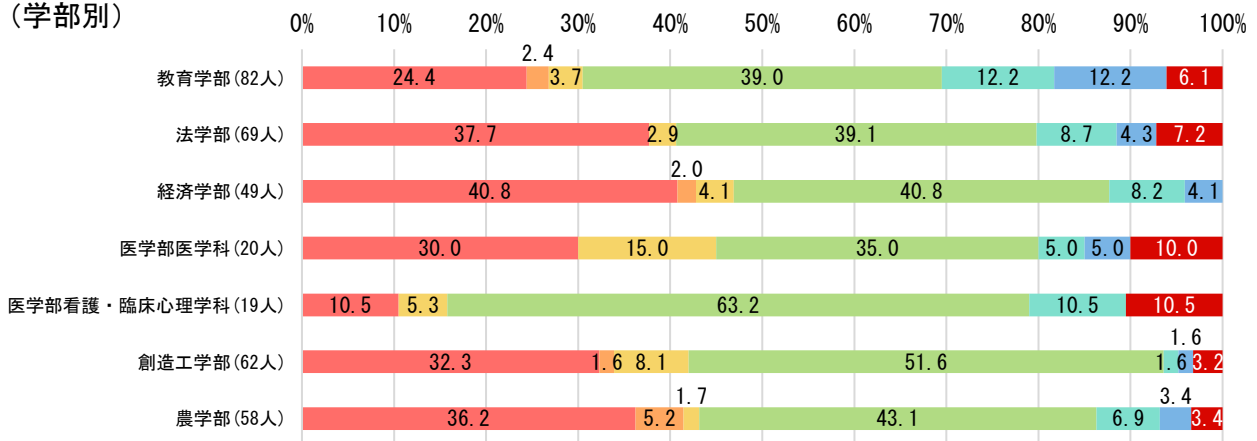
アルバイト収入の使途としては、「教養・娯楽費」に充てている学生が最も多く、全体の43.2%を占めています。次いで「生活費」が高い割合となっています。
所属学部別では、教養・娯楽費への支出割合が最も高いのは医学部看護・臨床心理学科(63.2%)、最も低いのは医学部医学科(35.0%)でした。
入学年度別では、2023年度入学生が50.0%と比較的高い値を示しており、他学年とは異なる傾向がみられます(過年度入学生除く)。

■生活費 ■学費 ■課外活動費 ■教養・娯楽費 ■旅行資金 ■交際費・コンパ費 ■その他

【全体(359人)】



(学部別)



(入学年度別)

